

「日本映画の巨匠 木下恵介と中国」

本木克英監督（木下恵介の最後の助監督）× 劉文兵（映画研究者）対談

『二十四の瞳』、『樽山節考』などで知られる映画監督、木下恵介は、1956年に『二十四の瞳』を携えて訪中したのを皮切りに、終生中国の映画人と積極的な交流を続けました。1977年には吉永小百合とともに日中文化交流協会の映画人代表として訪中しました。また、木下監督の50本目の作品『戦場の固き約束』は日中合作映画として製作される予定で、1988年に、木下監督は中国でロケーション・ハンティングまで行なったにもかかわらず、最終的に映画化には至りませんでした。

今回のイベントでは、木下監督の最後の助監督で『戦場の固き約束』に俳優として主演予定だった本木克英監督（『犬と私の10の約束』、『鴨川ホルモー』等）と映画研究者の劉文兵氏の対談を通じて、木下監督と中国との関わりを振り返り、1950年代から80年代までの日中文化交流史に光を当てます。また、中国留学経験もある本木監督が、日中合作映画『てなもんや商社』の製作に携わった際の体験談もお話いただきます。

「日本映画の巨匠 木下恵介と中国」

トークショー 本木克英監督（木下恵介の最後の助監督）× 劉文兵（映画研究者）

日時 2010年5月15日（土） 14:00～16:30
 場所 国際交流基金（ジャパンファウンデーション）2F JFIC ホール【さくら】
 （最寄り駅：東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」）
 出演 本木克英（映画監督） 劉文兵（映画研究者）
 参加費 500円（JF サポートークラブ会員は入場無料、要予約）
 予約 申込み：名前、連絡先を明記して、以下の連絡先までお申し込み下さい。
 TEL：03-5369-6087、FAX：03-5369-6044、e-mail：jfsmember@jpf.go.jp



本木 克英（もとき かつひで）

1963年富山県生まれ。早稲田大学在学中の1985年に中国へ語学留学。卒業後、1987年に松竹に助監督入社し、木下恵介監督、勅使河原宏監督などに師事。文化庁在外芸術家派遣研修生として1年間のアメリカ留学ののち、1988年『てなもんや商社』で監督デビューし、第18回藤本賞新人賞を受賞。主な映画作品に『釣りバカ日誌イレブン』『ドラッグストア・ガール』『ゲゲゲの鬼太郎 千年呪い歌』『犬と私の10の約束』『鴨川ホルモー』などがある。松竹の劇映画・テレビドラマ製作を支える屋台骨として活躍中。

劉 文兵（りゅう ぶんぺい）

1967年中国山東省生まれ。東京大学大学院博士課程修了（学術）。早稲田大学ほか非常勤講師。専門は映画芸術論。主な著書に『表象のディスコース メディア』、『映画のなかの上海—表象としての都市・女性・プロパガンダ』、『中国10億人の日本映画熱愛史—高倉健、山口百恵からキムタク、アニメまで』、『日本映画は生きている 第七巻』がある。



お問い合わせ：国際交流基金 情報センター 担当 吉本

TEL 03-5369-6087 / FAX 03-5369-6044 / E-mail: Noriko_Yoshimoto@jpf.go.jp